



神苑の決意

沖縄県翁長雄志知事の逝去を悼む

「沖縄保守」の大政治家の思想と行動にまなぶ

神苑の決意 主筆 木川 智

本号の内容

〔弔辞〕沖縄県翁長雄志知事の逝去を悼む 「沖縄保守」の大政治家の思想と行動にまなぶ（木川智）：1 / 〔連載〕アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る 台湾編④（仲村之菊）：4 / 〔書評・紹介〕安田浩一著『右翼』の戦後史（高井七海）：6 / 七月・八月活動報告：8 / 〔記録沖縄戦⑤〕軍民・日米それぞれの視点から（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：18 / お知らせ・編集後記：24

1部 1000円
(別途送料160円)

〔弔辞〕 八月八日、沖縄県の翁長雄志知事がお亡くなりになりました。六七歳。道半ば、志半ばでの出来事でした。

翁長知事は四期にわたり那覇市長を務めました。市長時代の平成一八年（二〇〇六）に初期の胃がんが見つかり、胃の全摘手術を行っています。それ以降ごく最近まで精力的に公務を務めておりましたが、今年四月にステージ2の膵がんが見つかり、切除手術を行いました。翌五月に退院し公務に復帰するかたわらで抗がん

剤治療を行っていましたが、この頃より、翁長知事がやせ細っていき、術後の経過の芳しからざる様子や抗がん剤治療の厳しさなどは、誰の目にも明らかでした。

それでも翁長知事は辺野古新基地建設の埋立工事承認撤回という重要な政治決定と政治日程を見据え、公務に励んでおりましたが、がんは肝臓へ転移し、先月七日には意識の混濁が見られ、意思決定が難しい状況になっていたそうです。翌八日、謝花喜一郎副知事が「翁長知事は意識混濁状態である」と会見

しましたが、その日のうちに不帰の人となりました。翁長知事のお通夜は同月一〇日に大典寺（那覇市）にて営まれ、一日に茶毘に付されました。その後一三日に同寺にて告別式が行われました。翁長知事の葬儀には、沖縄政界・財界の名士はもとより、菅義偉官房長官や二階俊博自民党幹事長、あるいは在日米軍将校なども弔問に訪れました。さらにゴルフでも「勇敢な指導者」として訃報が取り上げられていました。そして何より、多くの沖縄県民が葬